

巻 頭 言

JFE スチール常務執行役員
建材センター長

関谷 慶宣



近年の建材需要環境は堅調に推移してきたものの、2020年度は新型コロナの影響で需要が低迷しました。しかしながら、老朽インフラの更新、国土強靱化、都市再開発などを中心に需要は徐々に回復するものと想定され、中長期的にも底堅い需要が見込まれます。社会情勢に応じた形鋼製品の技術・商品開発や安定供給に努めることが重要と考えています。

JFE スチールの形鋼部門では、建築、土木、造船、鉄道分野を中心に社会インフラを支える鉄鋼製品を西日本製鉄所倉敷地区形鋼工場、福山地区形鋼工場の2拠点で生産しています。それぞれのミルの特徴を生かし、倉敷地区では大型のH形鋼および鋼矢板を、福山地区では造船用形鋼や鉄道レールを中心に様々な種類の形鋼を製造しています。また、各地区共通で製造できる商品を持ち、販売環境に応じたフレキシブルな製造体制としています。

今回のJFE技報「形鋼特集号」では、倉敷・福山形鋼工場での能力向上・品質向上を目的とした設備の改善およびJFE独自商品・工法をご紹介します。

現在、自然災害の激甚化に対する国土強靱化（高強度化 / 大断面化等）および労働力不足に対する現場作業の省力化・効率化（ハット形鋼矢板等）などのニーズが高まっています。JFE スチールはこの社会的なニーズに対応すべく、倉敷形鋼工場では鋼矢板中間ミルの増強、加熱炉更新、大型プレスの導入などの製造安定化・能力増強投資を完了しました。また福山形鋼工場ではレールの高品質対応工事、自動計測機器の導入による品質改善などの投資を積極的に進めてきました。

JFE 独自製品の商品開発・用途開発の面では、継手部に改良を加え従来品よりも単重を14%削減した直線形鋼矢板Jフラットパイル[®]ならびにJフラットパイル[®]を活用した加工商品の開発、および高強度外法一定H形鋼のHBL[®]-H355の適用拡大を進めています。さらにフランジ外面にコンクリートとの付着性を向上させる突起を有するストライプHTMは、従来工法に加えて新しい用途へも適用を拡大し、お客様のニーズに応じた技術開発・商品開発を進めています。

引き続き厳しい販売環境が想定される中、JFE スチールは今後もお客様のご要望や社会のニーズに合った商品を提供していく所存です。より一層のご指導とご支援を心からお願い申し上げます。